

# 検証・浦和電車区事件の真実 No.3

民主化闘争情報 [号外] 2008年4月2日 発行 日本鉄道労働組合連合会 (JR連合)

## 第3回 はずみで言ってしまった 脱退発言」

### 脱退するのか、しないのか！

2000年12月28日の浦和電車区講習室でのJR東労組役員による事件被害者・Y氏に対する集団による「事情聴取」。分会役員らの詰問の語気は次第に荒くなっていった。

斉藤(被告): この間俺と話した時、グリーンユニオン(JR連合)の人とキャンプに行っただと言っていたが、それについてはどうなんだ

Y氏: それがなぜ悪いんですか

上原分会長(被告): 東労組に入っておきながら、グリーンの中と行くことは裏切り行為じゃないか。キャンプに行ったメンバーは誰なんだ。何人で行ったんだ

Y氏: 5人で行きましたがメンバーの名前は言えません。もしあなたがそう言われたら嫌でしょう

上原: じゃあ、お前は東労組を脱退するんだな。脱退するということは、どういうことが分かっているな。脱退するのか、しないのか

Y氏: 迷惑のようだったら脱退しますよ

地本青年部長: そうなんですな。それでいいんですね

Y氏は約2時間にもわたって異様な雰囲気の中で集団から厳しく追及を受け、売り言葉に買い言葉で「迷惑のようだったら脱退しますよ」と言ってしまった。

### キャンプ参加者の名前を明かせ！

しかし事情聴取の後、冷静に考えると、Y氏の脳裏に不安がよぎった。「東労組を脱退したら試験は受からないだろうし、職場でも差別される。何とかしなければ」と思い悩み、上原分会長に電話で「軽はずみな発言をしてしまいました」と発言の撤回を申し出た。しかし分会長からは「今はだめだ。明日来い」と言われ、出直すことにした。翌29日、Y氏の仕事は休みだったが、指示通り電車区に出向き、講習室で分会長と二人で会い、発言の撤回を求めた。しかし、それでも納得してもらえなかった。分会長から再度、キャンプのメンバーの名前を明かせと責められたが断った。名前を明かせば、その人たちに迷惑が掛かると思ったからだ。そして、同日夜に分会長から電話があり、「どうしてもキャンプに行ったメンバーのことを明かさざるを得ないぞ。明日集会があるから出てこい」と言われた。

キャンプには、同じ趣味の仲間で行っただけのことだ。Y氏は、仲間の組合所属の違いなど、気にも掛けていなかった。それなのに、分会役員にどうして理解してもらえないのか、なぜこの程度のことでも大問題にされるのか、まったくわからなかった。Y氏は悩みに悩んだ拳句、キャンプに行った仲間に電話し、名前を明かしてよいものかどうか相談することにした。(次号に続く)

「検証・浦和電車区事件の真実」はJR連合ホームページに掲載中！ <http://homepage1.nifty.com/JR-RENGO>